

氏名	松 原 堅
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2471 号
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	体表面電位図による心肥大の病態の推定と鑑別診断 —特に肥大型心筋症と高血圧性肥大心の鑑別診断を中心に—
論文審査委員	教授 管 弘之    教授 寺本 滋    教授 辻 孝夫

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

体表面電位図のIsointegral map (Area map), Isochrone map (VAT map) を用いて左室肥大をきたす大動脈弁閉鎖不全症 (AR), 本態性高血圧症 (EH) および肥大型心筋症 (HCM) について, 電気生理学的な特徴を検討し, 体表面電位図によるHCMとEHの鑑別診断の作成を行った。その結果, QRS area mapは3群ともにほぼ同様のパターンを示した。しかし, QRST area mapではHCMはEH, ARと全く異なったパターンを示し, EH, ARではQRST area mapの極大は左鎖骨中線上のG4に位置したのに対し, HCMでは胸骨正中線上のE5に位置し, HCMの極小は左鎖骨中線上のG3に位置した。また, VAT mapでは, ARは左前胸部で等時線が密集し, 左前胸部から側胸部の心室興奮伝播時間が延長したが, そのパターンは3群間で大きな差は認めなかった。これらの結果より, HCMとEH鑑別にはQRST area mapの有用性が示唆された。HCMとEHを最もよく鑑別したのは, QRST area mapの極大値とQRST areaが陽性を示す誘導点の値の総和の2つの指標で, QRST area mapの極大値が $0.6 \mu\text{Vs}$ 以下, または, QRST areaが陽性を示す誘導点の値の総和が $14 \mu\text{Vs}$ 以下を示す場合をHCMとすると, その判別能力は両指標ともに正診率は70%以上であった。

このように, QRST area mapは, そのパターンからも, 統計学的にもHCMとEHの鑑別診断に最も適した指標で, QRST area mapの有用性が示唆された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は心電図学領域における体表面心電図による肥大型心筋症，本態性高血圧症および大動脈弁閉鎖不全症の鑑別診断の作成に関する臨床的研究であるが，従来十分確立されていなかった診断基準について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。